

ミャンマーにおける教育制度と高等教育の現状（2020年4月～2021年1月）

1. 概要

ミャンマーの教育課程は基礎教育と高等教育に分けられる。基礎教育には幼稚園、小学校、中学校、高等学校が含まれ、年数は、それぞれ、1年、4年、4年、2年となっている。幼稚園に入学する際の年齢は5歳で、高校卒業時は16歳である。2016-17年度より11年制から「幼稚園(KG)+12年生」制への移行が導入され、5歳で幼稚園、6歳から10歳（Grade 1- Grade 5）が小学校課程、11歳から14歳（Grade 6- Grade 9）が中学校課程、15歳から17歳（Grade 10- Grade 12）が高校課程となり、2022年度には、その制度に則った高校卒業生が誕生する予定である（図1）。

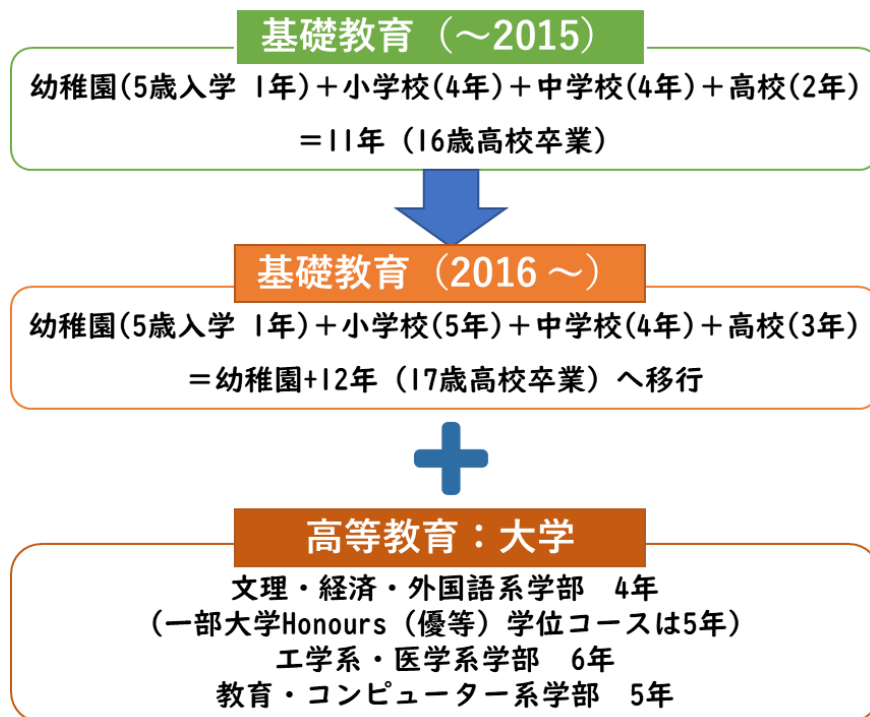


図1 ミャンマーの教育制度

大学教育以後を高等教育と呼ぶ。高校課程 Grade 11^(注1) 終了の試験の点数（全教科の合計得点）と居住地によって、申請できる大学が決められ、振り分けされる^(注2)。2018年度より一部の大学において独自の入試の実施が始まった。その大学を希望する者はそこに願書を送付することができるようになったが、基本的には Grade 11 時の試験の点数に基づいて、大学側が願書を精査し、面接を行い、合格者を選抜するというシステムである。

国立大学は、修士課程以上がある University と学部のみ Degree college、2 年制の College に分かれている。授業は一コマ 50 分で、基本的に一日 6 コマあるが、大学や専攻によって異なる場合もある。（一般的な時間割は 9:00-9:50, 10:00-10:50, 11:00-11:50, 11:50-13:00（昼休み）13:00-13:50, 14:00-14:50, 15:00-15:50 となっている）大学での授業内容は専攻に応じに全国共通のシラバス、同じテキストを用いて行われおり、授業形態は講義が中心である。

2020 年度の段階では、国立大学は 174 校存在する。一方、2011 年の私立学校設立法制定後、多くの私立 College が設立されている。私学の教育の根幹を定める私学教育法については、現在も審議中である。2018 年ごろから、College から University へ名称を変更す教育機関、University と自称する教育機関が増加している。

学年歴は、学部が 2 学期制で、1 学期が 12 月から 3 月、4 月 5 月が休みで、2 学期が 6 月から 9 月となる（表 1）。その後、10 月 11 月が休みで、この間に遠隔教育大学（Distance learning university）によるオンラインもしくはオンサイトの教育が行われる。修士課程、博士課程については、大学や専攻によって募集時期が異なることもあるが、基本的に学年歴は学部と同様、1 学期が 12 月から 3 月、2 学期が 6 月から 9 月である。

表 1 ミャンマーの高等教育機関における学年歴

【学部】	
1 学期	12 月 1 日～3 月 31 日
試験期間	3 月 20 日頃～3 月 27 日頃
長期休暇	4 月 1 日～5 月 31 日
2 学期	6 月 1 日～9 月 30 日
試験期間	9 月 20 日頃～9 月 27 日頃
長期休暇	10 月 1 日～11 月 30 日
遠隔教育	10 月 1 日～11 月 30 日
【大学院】	
1 学期	12 月 1 日～3 月 31 日
長期休暇	4 月 1 日～5 月 31 日
2 学期	6 月 1 日～9 月 30 日
長期休暇	10 月 1 日～11 月 30 日

2. ミャンマーの国立大学

2021年1月現在、国立大学の数は174校。ミャンマーの大学は、教育省がすべての大学を管轄しているわけではなく、関係8省庁がそれぞれの大学を管轄している（表2）。

表2 ミャンマーの国立大学と監督省庁（2020年現在）

管轄省庁	監督機関及び大学等教育施設名	大学数
教育省	文理、外国語、経済、教育、遠隔教育、工科、コンピューター大学他	134
保健・スポーツ省	医科、歯科、薬科、看護大学他	16
国防省	国防カレッジ、防衛アカデミー、防衛医科大学、防衛工科大学他	6
宗教・文化省	国際テラワダ仏教宣教大学、国家教学仏教大学、文化大学	5
天然資源・環境保全省	森林大学	1
農業・畜産・灌漑省	イエズイン農業大学、獣医大学、共同組合大学他	7
国境省	連邦民族発展大学、民族青年人材発展ディグリーカレッジ	3
運輸・通信省	海事大学、商船大学	2
総数		174

2. 1. ミャンマーの高等教育の変遷（～2011まで）

ミャンマーでは、軍政期において学生運動が民主化運動の母体であったため、度重なる大学の閉鎖が続き、何年間か教育の積み残しを解消するための措置として、大学3年制の導入、遠隔教育の拡充、教育の機会を増やすために大学の増設等を行った。このような試みを行ったが、教員の数が不足し、教育の質の低下を招いたと言える（表3）。

表3 ミャンマーの高等教育の変遷

1988年	民主化運動（以後10年あまり、閉鎖と再開を繰り返す）
1992年	遠隔教育（80年に始まった通信教育の改訂）の開始
1993年	ヤンゴン市郊外にダゴン大学設置 以降、教育の積み残し解消のため複数の大学（学部）をヤンゴン郊外増設 同時期に救済措置として大学が4年制から3年制移行
1994年	ヤンゴン大学大学院、続いてマンダレー大学大学院で博士号授与開始
2000年	大学が全面的に再開

-
- 高等教育機関の数 1988年から2009年の間に倍増
すべての州、管区に、文理大学、工科大学、教育大学、コンピューター大学を設置
→教員の不足
→高等教育の質の低下、受難の時期

 - 防衛大学、軍医科大学、軍工科大学に加え、防衛医学アカデミー、防衛看護大学などを増設
-

2. 2. ミャンマーの高等教育機関の変遷（2011年以降～）

2011年、文民政権となったテイン・セイン政権下では無償義務教育、基礎教育就学率増加、教員人材育成、奨学金制度、国際化政策など様々な改革が推進されてきた。

2011年には私立学校登録法が成立し、基礎教育課程の私立学校（教育省基礎教育課程のカリキュラムに準拠）が設立されるようになる。他方で2014年9月30日には、新たに「国家教育法」が制定された。その中には、基礎教育12年制への移行、一部大学除いて教育省傘下に戻す、大学の自治を推進するといった条項も入った「国家教育法改正法」は2015年6月16日に成立した。

アウンサンスーチー政権発足（2016年4月）後、教育全般に関わる新たな施策を実行に移すことが開始された。テイン・セイン政権時に開始された教育プロジェクトの一つ「包括的セクターレビュー(Comprehensive Education Sector Review: CESR, Phase1&2)」の提言を中心に、スーチー政権時において、「国家教育戦略 (National Education Strategic Plan: NESP) 2016-21」がまとめられた。2017年2月に、各国ドナーらを招いて、その導入を宣言する式典が開催され、教育改革はそのスキームに沿って進められている⁽³⁾。

3. 高等教育機関における2020年の動き

3. 1. 大学のオートノミー

2020年9月1日、教育省は主要16大学へオートノミー大学として独自で行政を行うことを許可した。これら16大学は、今までの中央政府が持っていた人事権システムから、自ら人事を行うことができるようになり、研究力の高い教員のリクルートすること

が可能になった。教員や研究者にとっても、公募により給与や職階等の待遇を改善することが可能になることから、本システムの導入は注目されていた。2020年10月、オートノミーを持つ以下の16の大学（表4）は、研究力の高い教員をリクルートするために公募を行った。

表4 オートノミーを持つミャンマーの大学

	大学名	設立年	沿革・特徴
1	ヤンゴン大学	1920	1920年設立。現在は文理大学。
2	ヤンゴン教育大学	1924	ヤンゴン大学の学科として1924年に誕生。1964年に大学へ独立。
3	ヤンゴン外国語大学	1964	1964年に Institute として誕生。1996年に大学へ昇格。
4	ヤンゴン遠隔教育大学	1992	遠隔教育の先駆け。50万人超の学生が在籍。
5	ヤンゴン経済大学	1924	1924年ヤンゴン大学の学科として誕生。1964年に独立
6	ヤンゴン工科大学	1924	1924年にヤンゴン大学の学科として誕生。1964年に Institute として独立。1998年大学昇格
7	ヤンゴンコンピューター大学	1971	1971年ヤンゴン大学にセンターとして誕生。1988年 Institute になり、1997年大学へ昇格。
8	ヤンゴン情報技術大学	2015	2015年ヤンゴンコンピューター大学から独立。
9	マンダレー大学	1925	1925年ヤンゴン大学に属する College として誕生、1958年に独立。
10	ザガイン教育大学	1992	1992年マンダレー教育大学として誕生。2000年にザガインに移転し、ザガイン教育大学に名称変更。
11	マンダレー外国語大学	1997	ミャンマーの2外国語大内の一校。1997年設立。
12	マンダレー遠隔教育大学	1998	2遠隔教育大学内の一校。50万人超の学生が在籍。
13	マンダレー工科大学	1991	1991年 Institute として誕生。ミャンマーで二番目の工科大学となる。
14	工科大学（マンダレー）	1955	1955年 College として誕生、2007年に大学昇格。
15	マンダレーコンピューター大学	1997	1997年に設立されたコンピューターやIT系の大学。ミャンマーで二番目のIT系大学。
16	ミャンマー情報技術大学	2015	2015年設立のIT系大学。インド政府とMOUを結び支援を受けている。

希望する教員は、大学が属する地域等を問わず全国どこの大学からも希望のオートノミーを持つ大学に直接申請することができ、大学側が独自で願書を審査し、2020年11月頃に面接を行った。調査協力者から得た情報によると、ヤンゴン大学の場合、面接はZOOMを用いて英語で行われたとのことであった。12月23日には採用結果が発表され、教員の昇進等人事異動が行われた。聞き取り等の調査からは、昇進の際、研究業績が重

視され、オートノミーを持つ大学に就任した場合、その後、トランスファーシステムによる大学間の異動がなくなるとのことであった。

3. 2. 私立高等教育機関のための法整備

2020年度の「ミャンマーの高等教育の現状」⁽³⁾ 報告時、「私学教育法」は2020年には制定になると予想されていたが、2021年1月時点でまだ制定されていない。関係者への聞き取り調査によると2018年8月17日に教育省高等教育局と基礎教育局の関係者で Private Education Institution Supervision Board が結成された。教育省と「国家教育政策委員会」(National Education Policy Commission: NEPC) が評議し、「私学教育法」が制定されるまで私立学校・私立大学の質の測定や登録に携わる目的で Private Education Institution Supervision Board が結成された。しかし、新型コロナウイルスの影響により、私立大学の質の測定や登録に向けて働きかけている段階で前進できない状態になっているとのことであった。

3. 3. 世界大学ランキングにおける躍進

ミャンマー国営新聞 Myanmar Ahlin (2020年4月6日ミャンマー語誌) では、ミャンマーの大学は世界大学ランキングで順位が大幅に上昇したと報じた。2020年1月に発表された世界大学ランキングでは、ヤンゴン大学は7,012位にランクインし、2016年の13,072位から6,060位もランクアップした。ヤンゴン大学は、ASEANでも326位にランクインし、243位ランクアップしている。また、世界8,291位にランクインしたマンダレー大学も12,410位もランクアップ、ASEANにおいても426位にランクインし、664位ランクアップしている。飛躍的な成長を見せている。

3. 4. コロナ禍の影響

2020年3月23日にミャンマー保健・スポーツ省がミャンマー国内で初めてとなる新型コロナウイルスの感染者2名が確認されたことを発表して以来、全国の学校及び国立大学が閉鎖された。

① コロナ禍における基礎教育の状況

5月26日に学校再開に向けて基礎教育会議が行われ、7月に高等学校を優先的に再開し、新型コロナウイルスの感染予防に留意しながら、中学校や小学校を再開する予定であることが教育省より発表された。学校再開の際、マスク着用、学生・教員の距離は最低6フィート(約183センチ)の距離を置くこと、教室定員を1クラス約20名にする

こと、隔週で開校すること、午前と午後の2シフトに分けること等、新型コロナウイルス感染症予防対策についても説明された。

7月21日にヤンゴン地域の初等教育の学校2,758校のうち高校408校が再開され、一ヵ月後に中・小学校を再開予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、8月27日から全国の基礎教育学校が閉鎖されることとなった。

2020年度10年生（高校2年）試験結果発表に関しても新型コロナウイルスの影響が見られた。2020年度の10年生（高校2年）試験結果は8月9日より教育省のウェブサイト（www.moe.gov.mm と www.myanmarexam.org）で発表された。8月10日には、試験結果が各高校に掲示され、9時から16時の間に登校・確認できるようになったが、マスク着用（可能な場合、フェイスシールドも着用）、検温、手洗い、6フィートのソーシャルディスタンスを取る等、保健省による予防対策を取りながらの試験結果確認となった。

2020年9月初旬から教育省のオンライン教材として、ミャンマー・デジタル・エデュケーション・プラットフォーム（Myanmar Digital Education Platform : MDEP）が利用できるようになり、基礎教育の新しいカリキュラムや教材がオンラインで閲覧できるようになった。

②コロナ禍における高等教育の状況

ミャンマー国内で初めて新型コロナウイルス感染症陽性患者が確認された2020年3月23日の翌日3月24日にミャンマーの各大学で開催中だった試験が中止され、国内のすべての国立大学が閉鎖された。

教育省高等教育局のテイン・ウイン局長は、6月9日の国営放送局MRTVとのインタビューで、大学やディグリーカレッジについては、学生が多く、初等教育のように2シフト分けるための教室が不足している点や、校舎が帰国者やコロナウイルス感染者の隔離施設として使用されることもある点等に触れ、再開が困難であることを説明した。

2020年9月9日に教育省は、新型コロナウイルスの影響により、学部・大学院の講義について、対面授業のみならずオンライン授業も実施しないよう指示した。教員等への聞き取り等の調査によると、オンライン授業が禁止された理由として、ミャンマーでは教員、学生ともにパソコンを1人1台持っているわけではないため、オンライン会議やオンライン授業の際、1台のパソコンで複数名が集まる可能性があり、感染リスクが高まる恐れがあるためとのことであった。

教育省は、2020年7月より大学におけるオンライン教育開始に向けて準備を進めた。ヤンゴンコンピューター大学の協力を得て、国立大学164校の教員を対象に E-Learning Management System や Moodle Google Classroom の使用方法等の研修を実施した。また、ヤンゴン教育大学及びザガイン教育大学の協力を得て、教授法に関する研修(Pedagogic Training) も実施された。

11月24日付けで、大学、ディグリーカレッジ、カレッジ等における大学院（修士及び博士課程）のオンライン授業の開始を許可すると、教育省より通知された。聞き取り調査からは、各大学で2021年1月からオンライン授業が開始できるように準備を進めているとのことであり、大学院生による研究発表会が実施された大学もあった。

③ オンラインによるヤンゴン大学創立100周年式典

コロナ禍の中、大学関連の大規模なオンラインイベントが行われた。それは、2020年12月1日に100周年を迎えたヤンゴン大学の100周年記念式典である。ヤンゴン大学100周年記念に11月19日と20日にヤンゴン大学の関係者のみならず全国の様々な大学の関係者による“Research Conference for the Centenary of the University of Yangon (RCCUY) 2020”と題したオンライン研究発表会が行われ、12月1日にはヤンゴン大学の100周年記念式典の開会式がオンラインで開催された。

【注】

- (1) 11年生時に実施されるが、ミャンマー語ではセーダンとよばれ10年生という意味。
- (2) 一部、ヤダナボンサイバーシティ工科大学、ミャンマー情報技術大学など全国から応募できる大学もある。）
- (3) 国家教育戦略（National Education Strategic Plan: NESP）2016－21」については2020年度「ミャンマーの高等教育の現状」参考：
https://studyinjapan-asean.jp/up_load_files/freetext/forjapanese/file/myanmar_edu.pdf

本報告書は岡山大学日本留学海外拠点連携推進事業（東南アジア）によりまとめられた。ミャンマー連邦政府教育省のHP掲載関連資料、ミャンマー国営新聞、2019年度の「ミャンマーの高等教育の現状と留学コーディネーター配置事業報告書」等の資料に加え、新型コロナウイルス感染症を考慮し、ミャンマーの高等教育関係者等に対し電話で聞き取り調査を行った。

【参考文献】

- 国家教育法改正法 2015 (ミャンマー語),
<http://www.moe.gov.mm/?q=content/အမျိုးသားပညာရေးဥပဒေကိုပြင်ဆင်သည့်ဥပဒေ>
(2021年3月25日最終閲覧)
- ミャンマー教育省「ヤンゴン大学100周年記念式典開催」(ミャンマー語)
<http://www.moe-st.gov.mm/?p=12884> (2021年3月25日最終閲覧)
- ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト (CREATE) (2020)「カリキュラム／教師教育両コンポーネント活動状況 (2020年11月) ニュースレター40回」
https://www.jica.go.jp/project/myanmar/014/newsletter/ku57pq00001y1513-att/newsletter_vol.40.pdf (2021年3月25日最終閲覧)
- ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト (CREATE) (2020)「カリキュラム／教師教育両コンポーネント活動状況 (2020年6月) ニュースレター38回」
https://www.jica.go.jp/project/myanmar/014/newsletter/ku57pq00001y1513-att/newsletter_vol.38.pdf (2021年3月25日最終閲覧)
- ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト (CREATE) (2020)「カリキュラム／教師教育両コンポーネント活動状況 (2020年5月) ニュースレター37回」
https://www.jica.go.jp/project/myanmar/014/newsletter/ku57pq00001y1513-att/newsletter_vol.37_20200529.pdf (2021年3月25日最終閲覧)
- Department of Myanmar Examinations “Announcements”
<https://www.myanmarexam.org/announcements> (2021年3月25日最終閲覧)
- Master Plan (University of Yangon), <https://www.uy.edu.mm/master-plan/>

(2021年3月25日最終閱覽)

Myanma Alinn Daily (2020.4.6)

https://www.burmalibrary.org/sites/burmalibrary.org/files/obl/mal_6.4.2020_news.pdf

(2021年3月25日最終閱覽)

NESP [National Education Strategic Plan] 2016-21, [http://www.moe-st.gov.mm/wp-](http://www.moe-st.gov.mm/wp-content/uploads/2018/01/NESP_20Blueprint_20-20English_20-20Final_20-20Feb_2023.pdf)

[content/uploads/2018/01/NESP_20Blueprint_20-20English_20-20Final_20-20Feb_2023.pdf](http://www.moe-st.gov.mm/wp-content/uploads/2018/01/NESP_20Blueprint_20-20English_20-20Final_20-20Feb_2023.pdf)

(2021年3月25日最終閱覽)